

## 1 ページ

私は世界で 3 番目に標高が高い都市であるエチオピアのアディスアベバで子供のボランティアをしてきました。大飢饉や紛争の結果、何千人もの子供たちが放置され、孤児となっ  
てしまい、今日はそれに加え、HIV やエイズ感染の問題まであり、すさまじい貧困の影響によ  
ってもまた、たくさんの子供たちが置き去りにされています。首都・アディスアベバは著しい  
発展と中級階級層の登場によって経済全体に変化が表れているにも関わらず、エチオピア  
では75%を占める人々が1日1ドル以下の生活を行っています。このような現状を知り、笑  
顔をなくしてしまった子供達に、何か私に出来ることはないかと思い、現地へ赴きました。  
今回私は、本部をイギリスに構える、世界各国からボランティアを募っている団体へ参加  
しました。私が参加したケアプロジェクト以外にも教育、医療、環境など様々な分野での  
ボランティアを行っている団体です。日本人参加者は圧倒的に少ないため、エチオピア  
には日本人スタッフは常駐していませんでしたが、日本に留まらず世界の人々と共に活  
動することで、文化やボランティアに対する考えなど、多くのことを吸収できると思  
い、英語力は乏しいながらも参加を決意しました。現地では、教師を職としているホ  
ストファミリーの家に滞在しました。ボランティアを受け入れるホストファミリーはこれ  
により、子供に教育を受けさせたり、医療機関を利用したり、更に良い環境で生活す  
る為の定期収入を得ることも出来るとあって、この団体は様々な分野においてボラン  
ティア精神を追及しています。私はステイ先から30分ほどバスを乗り継いで、0歳~7  
歳くらいまでの孤児たちが住む孤児院で朝から夕方まで活動をしました。その途中、  
ストリートチルドレンが「I'm hungry.」と言って後ろについてきたり、旧型の排気ガ  
スを多く出している車が走り、道に沿って果てしなく家なき人々が横になっていた光  
景は忘れられません。戦争、紛争がなければ「平和」というわけではないのです。孤  
児院には、生まれてすぐに橋の下に置き去りにされた子や、道端で何日も一人た  
たずんでいた子、親がエイズで育てることが出来なくなってしまい、預けられ  
た子、耳が聞こえず目も見えない為に捨てられてしまった子など、日本では考  
えられない状況で懸命に生きている子どもたちがそこにはいました。拾われ  
て来た為に、誕生日も名前も決まっていな子も何人もいました。ミルクを  
あげ、おむつを替え、おもちゃで遊び、寝かせるというまさに母親代  
わりの仕事を何人もの子供達にし、その子供達が寝ている間は、6、7  
歳の子供たちに折り紙で遊んだり、地図で日本・エチオピアの場所を教  
えてあげたりしました。子供たちが笑顔になる度に、逆に私が癒されて  
いました。孤児院で働く現地の人も無償で働いており、孤児院の運営費  
や諸費用も国から支給されることはなく、全て寄付によってまかなわ  
れていると聞きました。この団体でボランティアに来る人々の国籍は様  
々だが、イギリス、アメリカ、フランスが多く、日本人に至っては私  
が初めてエチオピアのプロジェクトに参加し

た日本人ということでした。日本人はまだまだボランティアに対する意識が低いという現実を知り、私は今回体験したことを多くの人に伝え、知ってもらうことが必要だと強く感じました。また、エチオピアでは学校に通えている子供達は幼い時から英語を学んでいます。英語を学び、話せるようになることで将来の可能性が広がり、自国の発展にも繋がるのだと現地の人から聞きました。長期的に考えると、英語を教えるということはとても大きな意味を持つと感じると共に、現地でスタッフや他のボランティアと接する際に英語でのコミュニケーションが順調にいかなかったことで、もっと多くの人を助けるためには、英語力も必要であり、英語力をもっとつけたいという次なる課題も見つけることが出来ました。

8/8～8/17、実質8日間のみ活動期間でしたが、エチオピアの現状、ボランティアの現状、他国の人々のボランティアに対する取り組み方、今後の課題など様々なことを学び、考えさせられ、とても充実した発見の日々を送ることができました。途上国への旅にはつきものの停電や断水、お腹を壊すなどのハプニングはたくさんありましたが、もっとこの国、子供達に出来ることをしたいと思い、帰りたくない気持ちがとても大きかったです。多くの事を得ることが出来ましたが、何よりも大きかったのは、一瞬でも、自分の活動によって子供達を笑顔にすることが出来たという事です。

この経験を多くの人に伝え、多くのボランティアを生み出し、一人でも多くの笑顔を作ることで世界が平和になることを願わずにはいません。